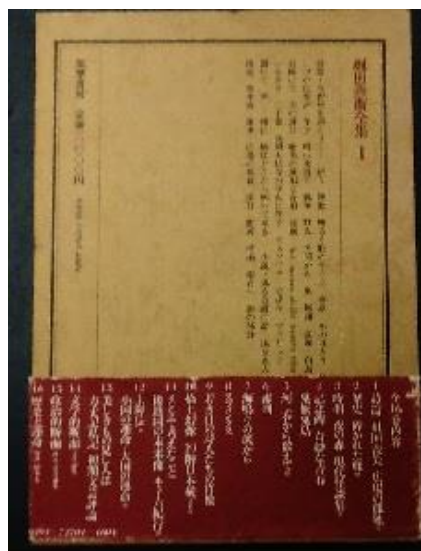
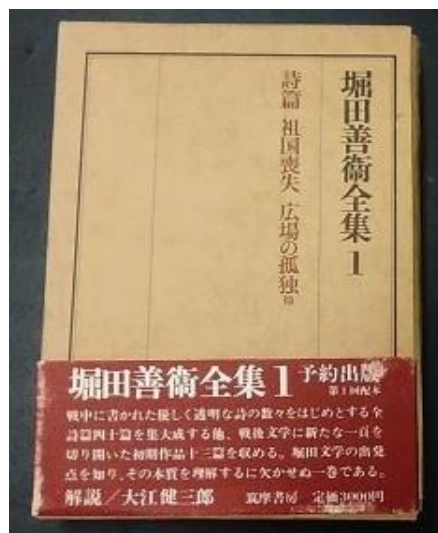


(再掲) 2019年4月1日(月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集(筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年10月2日(木) 早朝 西の空に十五夜の月



2020年10月2日(金) 秋晴れ

昨夜は中秋の名月、今夜は満月。今年はお天気に恵まれた。今朝西の空に輝く名月を望んだ。今夜の満月も期待できそう。

ー 続ける、続く ー

昨日は旧暦の8月15日、例年朝に祭祀を行う。その準備と後片付けで2,3日バタバタとすごす。年内の祭祀はこれで終わり、ほんと一段落。

上の世代はいる時はただただ従うばかりだったが、自分の代になると、にわかに自分事としてやるようになる。親の姿を見て育ったから、自然とそうなる。伝統行事や風習が長く続くワケもよくわかった。

長く続くといえば、2007年からほぼ毎月ミーティングを続けている4人グループがいる。受講した塾の帰り道でたまたま一緒になった人たちがこのまま終わるのはモッタイナイねという話になって始めた。

こういうケースは長くて3年ほど経つと、自然消滅または発展的解消になるのが常。それが13年も続いているのにはいくつかワケがありそう。

まずは4人という人数の少なさがいいのだろうと思う。受け身で参加する会にはならず、関係性が密接になる。

開催時間を午前9時半にして午前中で終え、そのまま解散するのもいい。ランチをしようという流れにはせず、クールに切り上げる。

そして何より、特定のテーマを決めないのが功を奏している。初期の一時は決めていたらしいが、そうすると、柔軟で、広がりのある話にならないと気づいたらしい。

かつて最初の事務所の時、リーズサロンを主宰していたが、当初からリーズサロンは自由な会話、議論の場にしていった。精神には際というものがないと感じていたから、テーマを決めるなんてことは考えなかった。

リーズサロン自体は事務所退室とともに終えたが、自由な会話、議論の場と機会は、公私ともに今もつくり続けている。それもまた自然な自分の営みとして。

2020年10月4日(日)曇り

兵庫県のJR道場駅から歩いて7分の貸農園へ日曜散歩

貸農園で野菜や花を育てている友人に誘われ、大阪から少し遠出。武田尾の一つ先、三田の一つ手前。視界のひらけた、のどかな風景が広がる場所でした。

お昼ごはんはワイン持参、農作業は帰りに少し友人がしただけ。12時半に到着してすぐにランチ。大樹の下の大きな木のテーブル・ベンチに並んで座り、農園とその先の山を望みながら、ワイングラス片手に、積もる話。

おたがいの「道」行きを振りかえり、そして展望。日曜の昼下がり、多くと語らくても通じあう二人の哲楽カフェ。





2020年10月6日（火） 晴れの予報

予報では晴天。日の出時間がすぎて20分ほど経った東の空、朝焼けが広がった。昨日夜から気温がぐっと下がった。いよいよ本格的な秋。

－ 続ける、続く（続） －

先週末からの「ひと言ひとり言」はかつての「LEESサロン」の話をしている。最初の事務所で1995年7月から1998年12月退室までのほぼ毎月主宰していたサロン。

その初期に友人と一緒に初めて参加し、今も交流の続く一人と5年ぶりに一昨日会った。たがいに全く異質な世界で働き生きて、会うのも稀、ほとんどは葉書や手紙のやりとりだが、ずっと続く関係性。

もうずいぶん前、久しぶりに会った時、先方がこんな風に言ってくれたる。『ときどきリーさんのことを思い出して、わたしいも頑張ろうと思っているのよ』。それはこちらも同じ。孤軍奮闘する者どうしの励み。

偶然の出会いは特別視しがちだけど、縁になるとは限らない。とはいえ、後々「これは縁としかいいようがない」と思えるほどの関係性になることもある。それがあってこそ、人生。

昨日は独立当時に出会い、今も続く人を半年ぶりに会った。一昨日にあった友人と昨日会った友人はわたしと通じて出会った。二人もずっと交流が続いている。

どちらからも関係を続ける働きかけをして、ずっと続く関係。そうできる、させるものは何か。アートの心、そういう気がする。共通するのはそういった精神性をそなえていることではないか、不遜かもしれないが。

2020年10月12日（月） 晴天

昨日の午後から少しまだ気温が高い。上がった、下がった、季節の変わり目、風邪をひいている人も多いよう。油断禁物。

－ ほんとうにわかるということ －

思いがけず『心。』（稲盛和夫）をいただいた。初めて著書を読んだ。表紙の「すべては“心”に始まり、“心”に終わる。」はよくよくわかる。でも本当にわかっているとは言えない。そうわかる。我が身をふりける。

読書家で知られる「岡田准一」が雑誌のインタビューで、『本当に偉い人の言うことはだいたい同じ』と応えていた。本当に大事なことは、「考えてみれば当たり前」なことが多い。

『言うは易く行は難し』。マネジメントが大事なことはわかっている。でも、実践できないのが常、特に検証を。だからくり返し、手を変え品を変え、手法が出てくるし、本も出る。

わかったつもりが、まだまだわかっていないと、わかる。これまでも何度となく重ねてきたが、「心」に始まり、「心」に終わる」ということを、自分なりにまだまだ問い続けなければと思う読後感。

同じようなことはできないので、あくまでも自分なりに。

2020年10月16日(金) 晴れ

昨日出先で金木犀をみかけた。そう、そう、この季節になっていたと、思わず写真に撮った。京都御苑の大きな木を思い出した。

－ 「歴史の心得」 －

『類は友を呼ぶ』とはよく言ったものと日頃からよく時々話している。ユーチューブ上でもそれは確かで、「堀田善衛」で検索して出てきた投稿者の動画リストは興味をそそるものばかり。

リストにはテレビのインタビュー番組が多数あって、今は亡き人も多く、「マーヴィン・ミンスキー」もある。よくぞアップしてくれたもの、投稿者の志向性が浮かんでくる。

まずは「堀田善衛」を視た。終戦直前直後にいた上海でのことを語っていたが、耳に残ったのが「歴史の心得」という言葉。敗戦国になり、逆襲を受けるかと戦々恐々としていたが、何も怖い目に合わなかった。

なぜそうなんだろうと友人の中国文学者に尋ねたら、「いずれまたやって来る思っているんだよ」との返答。5千年の長い歴史の中で市井の人々が学習した社会的知性といえるか、「堀田善衛」はそれを「歴史の

いい言葉だなあと感じた。事態を短期的にとらえて感情的に動くのではなく、長い目でみて平常心をもって行動する。個々人の人生の歴史にもいえることではないか。

いまこうして簡単に「堀田善衛」の話を聴けるのも、ネットのおかげ。

2020年10月19日(月) 曇り

朝から曇り空、今日一日晴れ間は無しのように。急に寒くなり、あわててウールの羽織りものを出した。体調管理に要注意。

－ 秋の夜長に学際勉強 －

秋は行事が多い、セミナーもたくさん開催される。それらのほぼ全てが今年はオンライン中心。なかにいくつか気になるものあり。さっそく申込みをするうちに、途中で入力をやめたものあり。

申込を外部の専門会社に委託し、その会社への登録が必要なケース。さまざまな分析に使われるのだろうと、ちょっと自分の精神を侵害された気になる。そこまでして受けることもないと思ってしまう。

そこでこちらから相手先を選びチェックすることにした。以前から信頼している団体や機関、施設。あるところは、別の関連サイトで過去の公開講座や講演会の動画をほぼすべてアップしていた。知らなかった。

おもしろい対談があった。初めて知ったまだ若いアーティスト、彼の活動が奇想天外でビックリ、話もありこちに飛ぶ。そこに応じる対談者、動物研究の重鎮は、まるでその彼を手懐けるよう。

まだまだ他にもたくさん講演記録が掲載されている。分野が多岐にわたっていて、秋の夜長に愉しみな学際勉強。

2020年10月23日（金） 雨

雨がつよく降っている。昨日から気温が少しあがり、汗をかいた後、ひやっとするのがこの季節、風邪に要注意。今日は霜降、今夜は上弦の月。さて望めそうか。

－ 野菜のブランド化 －

今日の朝刊に載った、野菜のブランド化）をうたった本の広告をみて、10年前のある創業塾でのことを思い出した。受講者の一人に野菜販売の事業を予定している女性がいた。

彼女は野菜のブランド化に疑問を呈していた。普通の農家さんが丹精に育てた野菜で十分、自分はそんな野菜を売るのだと話していた。静かな物言いだったが、キリツとしていた。すごく印象に残った。

時々テレビ番組で、そこまでするか、というほど手をかけた野菜や果物を高額で売る事業が紹介されたりする。その努力たるや大変なことで、敬意を表す。

ただ、食べ物をそんな高いものにしていいのかとも思ってしまう。人間は食べなければ生きていけないわけだから、ブランド化には一定の節度が必要なのではないか。

そう考えて野菜をつくり、事業をする人たちも多いはず。かの女性は今どうしているだろうか。

2020年10月26日（月） 秋晴れ

今朝もよく晴れている。土曜も日曜も晴天、日陰に入ると風はつめたいが、散歩には絶好の時期。桜の木も紅葉し始めた。

－ 自由な対話の万華鏡 －

10月は、暑くもなく寒くもなく、人の気持ちを外へ外へ運ぶ。どちらともなく声をかけ、久しぶりに友人知人と会ったりする季節。

5年ぶりに会った友人と近況を報告し合い、互いの＜道＞を語らう。一年ぶりに会った知人たちとの語らいでは知って知らない互いの初めての出会いを今さらながら話したり。

半年ぶりにあった知人とは散歩しながら思いがけないアイデアをもらったり。自由な対話にはいつも何かしら根がある芽がある、実りがある。テーマを決めず話すことの醍醐味。

おたがいに＜話せる＞人がいて良かった。話して、感じて、考えて。時に自問の機会になる。そして自答の助けに、また別の＜話せる＞人がいて、考えのヒントを得る。

思えば十代からこれまでの歩みは＜話せる＞人たちとの自由な対話の万華鏡、人生に彩をつくってもらっているよう。